

令和4年度「市長と語り合う会」について（二条地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和5年 1月23日（月）	二条公民館	19:00～20:00	8	-	8

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課主査

2 会の概要

- 開 会（秘書課主査）
 - ・ 会の趣旨説明
 - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 令和4年度施政方針「危機を機会に転じる積極思考」

・脱炭素社会の実現に向けた取組

地球温暖化と言った気象変動は、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量が急激に増えたことにより進んだとされている。世界的にも、二酸化炭素等の排出量を減らす動きが強まっており、国内においても、2050年までに、二酸化炭素の排出量と吸収量をゼロにするカーボンニュートラルの取り組みが進められている。

市においても、これまで市の施設の照明をLEDに変え少電力化を図ったり、屋根に太陽光発電装置を設置し取り組んできた。今年度は、共用車として電気自動車を一導入し、どれくらいの効果があるのか検証を行いたいと考えている。

・行政サービスの効率化・最適化を図る「デジタル・トランスフォーメーション」

新型コロナウイルス感染症は、社会生活、経済活動に世界的に大きな影響を与えたが、その中の一つの動きとして、デジタルの技術を使い遠隔地でも会議ができたり、出勤しなくて済むようになった。行政においても、これまで手作業で行っていた事や、紙に書いて申請していただいていた事を、デジタル技術を使い効率化するデジタル・トランスフォーメーションへの移行が必要とされている。市においても、今は申請書を手書きで書いていただいているが、それを職員が聞き取ってデータを入力し必要な書類を整備する「書かない窓口」を進めたり、亡くなられた方のご家族の手続き等を1カ所で済ませることができるよう行うこととしており、今後も市民サービスの向上に向けて取り組んでいきたい。

・益田市型中高一貫教育の実現に向けた取組

これまでも市では、保育所、幼稚園の段階から小学校、中学校にわたり、ふるさと教育として、益田に愛着をもって、将来も益田市で活躍してくれるような取り組みを行ってきた。

今後は、その一貫した教育の流れを高校でも進めて、高校卒業後に地元で働いてもらったり、あるいは進学したとしても、その後は地元に戻り活躍してもらえるような体制を築いていきたいと考えており、そのために中学校と高校の6年間を一貫した形で進める事が必要であると考えている。現在、高校側とも協議を進めているところである。

・交通インフラ及び都市基盤整備

益田市においては、特に飛行機の便と鉄道の便が重要と考えている。

萩・石見空港については、東京便が1日2往復運航されているが、今後も2往復運航が続くよう利用拡大に取り組んでいきたい。大阪便についても、運航期間の拡大に向け取り組んでいきたい。

また、JR山陰本線の収支状況が非常に厳しい状況であることが報道発表された。今一度、鉄道路線の利用頻度を高めていき、維持されるように取り組んでいかなければならないと考えている。

高速道路については、三隅益田道路の工事が進み、令和7年度に全線開通する見込みである。益田西道路、益田田万川道路についても、事業化され工事が行われることとなっている。

もう一つ残る区間としては、久城から高津までの間の益田道路で、本来は高架道路や橋として繋がる予定であり、この区間は高津川と益田川の浸水想定区域にもなっているため、災害の安全度を高めるためにも重点的に国へ要望している。

また、この区間は区画整理を進めてきた所で、益田川左岸南部地区の土地区画整理事業も進めていきたい。

・ワクチン接種

新型コロナウイルス感染症への薬は、まだ発明されていないので、唯一の手立てとしてワクチン接種があり、感染そのものの防止が必ずしもできるわけではないが、感染した場合の重症化を防ぐ効果があるとされている。ワクチンについては、今後も接種が進む可能性があるし、一方では、感染症法の位置づけが2類から5類へ移行するとされている。その場合でも、ワクチンや治療費は負担が大きいので、国の公費負担を要望していきたい。

2. 市制施行70周年

昭和27年に、当時の町、村が合併して益田市が誕生し、昨年が70周年の年であった。記念式典を11月3日にふれあいホールみとで行い、市の発展に貢献いただいた方々への感謝の気持ちを表すとともに、今後さらなる発展に向けて、市民の皆様全員で気運を高めていこうという趣旨で行ったところである。これからも市民の皆様と一緒に、さらなる発展に向け取り組んでいきたい。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 国営土地改良事業分担金の時効消滅について (1)
- ② 国営土地改良事業分担金の時効消滅について (2)
- ③ 中山間地域研究センターについて
- ④ 交通路線について
- ⑤ 道路の拡幅について
- ⑥ 河川内の土砂の除去について
- ⑦ 人口減少、空き家対策について
- ⑧ インターネット回線について
- ⑨ 空き家バンクについて
- ⑩ 病院について

○ 閉会 (秘書課主査)

令和4年度「市長と語り合う会」

〔会場 二条公民館 開催日時：令和5年1月23日（月）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 国営土地改良事業分担金の時効消滅について (1) 何の法令に基づき事務の執行を行っているのか知りたい。土地の売買契約が、民間と国のやり方が違うからこういう事態になったのではないかと思う。公金の場合は国税徴収法に基づくこととなっていると思う。</p>	<p>① 土地を買われた方に、面積に応じ分担金を負担していただく事としていたが、建設費の高騰や農産物の輸入等影響を受け、農家の経営を圧迫し分担金の遅延が発生した。民事上の債権と公的な債務では時効消滅が違っており、その認識がなく時効消滅の効果が生じないまま督促していた。今後の取り扱いとしては、時効消滅した方について任意での納入（寄付）をお願いしており、分担金の回収努力を続けていきたい。</p>
<p>② 国営土地改良事業分担金の時効消滅について (2) 市役所全体で定期的に対応を検討する場が必要ではないか。一つの提案であるが、税務課に滞納整理する班を作り、一括して対応する体制がいいのではないか。</p>	<p>② 今後はこのような事がないよう債権の管理をしっかりと行っていきたい。いろいろと徴収すべき債権が複数の課にあり、現状は、それぞれの課で熱心な対応により管理しているが、検討していきたい。</p>
<p>③ 中山間地域研究センターについて 中山間地域研究センターに相談をしたり活用したいと考えているが、なかなか利用しにくいということも聞く。</p>	<p>③ 県の機関であるので市も連携して中山間地域の様々な問題の解決について努力したい。</p>
<p>④ 交通路線について この会を昼に開催したら、もう少し参加人数が多いのではないか。それと交通機関の利用についてだが、イベント等を絡めて利用を呼びかけることが必要ではないかと思う。また、石見交通バスに誰も乗っていない事がよくあるが、住民の利便性を考慮した運行にすれば利用者も増えると思う。誰も乗っていないバスに補助金を出すのはどうなのか。</p>	<p>④ 会の開催時間について、日中仕事をされている方は、平日の昼の参加は困難である事等を考慮し、現在は平日の夜に開催しているが、要望があれば変更することは可能である。交通路線については、飛行機の利用を増やすため旅行支援や宿泊補助金を支出しているが、中国地方全域の会議等大きな催しは、年1回あるかないかで、今後とも誘致していきたい。バスの路線についても、交通対策協議会の中で、より良い交通のあり方を議論いただいている。何とか利便性が高く費用負担の少ない公共交通を見出していきたい。</p>
<p>⑤ 道路の拡幅について 国道191号において、高津のヤマダ電機前の水路に蓋をして3車線区間を伸ばせば、渋滞が緩和されるのではないか。</p>	<p>⑤ 国の管理区間であり、国も交通渋滞が課題である事は認識している。久城高津間の高速道路が開通すれば、交差点の一部が立体交差になるので交通渋滞が緩和されると思うが、言われた拡幅が可能かどうか、浜田河川国道事務所へ話をしたい。</p>
<p>⑥ 河川内の土砂の除去について 大雨の際に水路や田への水の流入を防ぐため上黒谷川の土砂を100m程度除去してほしい。</p>	<p>⑥ 担当課で現地等を確認し、公民館を通して回答したい。</p>
<p>⑦ 人口減少、空き家対策について 二条においても、人口がどんどん減少し、また空き家も増えてきている。その対応策についてお聞きしたい。</p>	<p>⑦ 人口減少については、社会増減と自然増減があり、社会増減に対する対策としては、U I ターン者への奨励金等の支援や働き場の確保、あるいは安心して医療を受けられる町に</p>

⑧ インターネット回線について
インターネットの回線（環境）が悪いが、な
んとかならないものか。

⑨ 空き家バンクについて
空き家バンクは、空き家にならないと登録
できないと聞いた。提案だが、管理するた
めに住み続け、売買契約が成立すれば期限
内に空けるというような条件で、空き家
バンクに登録できないか。空き家のまま
放置するよりは、維持管理もずっとして
いることになる。

⑩ 病院について
日赤に脳外科がなく浜田に行くしか
ない。移動中に進行したこともあるの
で、益田にも脳外科を設置してほしい。

していく事や、子供の時から益田市に愛着を
持ちずっと住み続けたいと思ってもらえる
人を増やすことだと考える。自然増減につ
いては、健康づくりの推進や出会いの場を
作る事業への支援、不妊症の方に対する支
援、または子供を育てる環境を整える取
り組み、さらには魅力的な学校とするた
めに、中高一貫教育の取り組みを進めて
いる。日本全体で人口が減少している状
況であるが、地域が維持できるよ
う努力していきたい。

空き家の問題については、空き家バンク
制度を設けている。住宅については、基
本的には個人の責任で管理、または住
み手を探していただき、そこをお手
伝いさせていただくことで進めてい
る。

⑧ インターネットについては、市の地域
情報基盤整備事業で100MBの用量が
確保されているが、近年インターネット
通信が増えてきたので100MBでは少
ないという声がある。市としては、民
間投資で回線を増やしていただきたい
ところだが、採算に合いにくいとい
うことがあるかと思う。市で検討して
いるのは、市の通信基盤を改良し、容
量の大きい回線にできないかである
が、財政負担がかかるので、国の有
利な支援、あるいは運営していただ
く民間事業者等、どう確保していく
か課題であると考えている

⑨ 契約が成約になるまでの期間、管理
していただくという事だが、現状では
できないという事なので、検討したい。

⑩ 脳外科が市内には無いので、対処が
遅れるのは大きな課題である。これに
ついては、脳外科がある浜田市への高
速道路の早期整備を行うこと、また
出雲市にある大学病院や県立病院で
もより高度な医療が可能なので、ド
クターヘリでの搬送もあり、こうした
手段を確保しつつ、市内の病院と連
携し、医師確保に引き続き努力して
いきたい。